

開祖随感

惚れ込んだ人のひと言

「この人こそ、と本当に惚れ込める人を持っていることが人生最高の幸せだ」と言う人がいますが、そのとおりですね。

その人が話すひと言ひと言に、「そのとおりだ」とうなずかされる。その人の顔を見、声を聞くだけで、うれしくて、生きる力がわいてくる……。「私もあの人のようになりたい」と、知らず知らずのうちに、ものの言い方から考え方まで似てくるのです。

信仰でもそうです。みなさんの多くは仏教の教義もさることながら、導きの親御さん、支部長さん、教会長さんの姿に引きつけられて、ご法に導かれたのではない

でしょうか。その人が説いてくださる教えだからこそ素直に聞くことができて、だんだん仏教の深い教えに引きつけられてきたのだと思うのです。

会社でも、部下に好かれることが上司の第一条件だといわれます。心から好きになると、その人に言葉をかけてもらうだけでもうれしい。失敗して注意されても、「ようし、この人の期待に応えなくては」と発奮する。いちいち指示される前に自分から動かずにいられなくなる。慕われる人になると、黙っていても人さまをお救いできるのですね。

(『開祖随感』9, p. 166-167)

Living the Lotus 2017年3月号 (Vol.138)

【発行】立正佼成会 国際伝道部

T166-8537

東京都杉並区和田2-6-1 普門館5F

Tel: 03-5341-1124 Fax: 03-5341-1224

E-mail: living.the.lotus.rk-international

@kosei-kai.or.jp

編集責任者: 水谷庄宏 編集チーフ: 金尾江利子 校閲者: 吉田晃一郎

編集スタッフ: 国際伝道部スタッフ

立正佼成会は1938年に庭野日敬開祖、長沼妙佼脇祖によって創立された、法華三部経を所依の経典とする在家仏教教団です。家庭や職場、地域社会の中で釈尊の教えを生かし、平和な世界を築いていきたいと願う人々の集まりです。現在は庭野日鑛会長とともに、私たち会員は仏教徒として布教伝道に励みながら、宗教界をはじめ各界の人々と手をたずさえ、国内外でさまざまな平和活動に取り組んでいます。

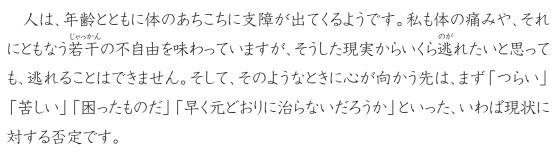
Living the Lotus—Buddhism in Everyday Life(法華経を生きる〜生活の中の仏教)というタイトルには、日々の生活のなかに法華経の教えを活かして、泥水に咲く美しい蓮の花のように、人生を豊かに、そしてより価値あるものにしていきたいとの願いが込められています。本誌を通じて、世界中の人々に日々の生活のなかで活かせる仏教の教えをお伝えします。



肯定的か、否定的か

立正佼成会会長 庭野日鑛

前向きの力がわいてくる



体の支障だけでなく、私たちは自分の思いどおりにならない現実を不満に思い、マイナスのこととして見る傾向があるようです。野菜農家にとっては恵みの雨が、洗濯物を干したり、観光を楽しんだりする人にとっては恨みの雨になるように、心は自分に都合よくはたらくことが多いのです。

ただ、「いやだ」「なんでこんなことに」と不満に思ったところで、現実はどうなるものでもありません。ならば、「いやだ」と思うその感情をいったん離れ、客観的に、そして肯定的に現象を観察してみてはどうでしょうか。視野を広げると、心も豊かになると思うのです。

私は、「この体の痛みは、同じような痛みをかかえる人を思いやれるいい体験だ」と 受けとめています。そして、「もし治ったときには、痛みもなくふつうに暮らせることがいま 以上に『有り難い』と感じるはず」と、そのことをいまから楽しみにしているのです。

病気や怪我はつらく、ときには理不常に思えるものです。しかし、それを肯定的に受けとめれば、その瞬間からいま・ここの苦しみや悲しみが和らくばかりか、のちの人生の充実につながるエネルギーが蓄えられると思うのです。





大らかに

先に「恵みの雨」と「恨みの雨」の話をしました。あれは、雨という一つの現象を見るときの一例ですが、ものごとを多面的に見ると、どれほどつらく苦しいことのなかにも、必ず「有り難い」と思える要素が見出せます。なぜなら、この世に無駄なものは一つとしてないからです。

仏教学者の紀野一義さんは、「現象やものごとはすべて真実のすがたをあらわしている」という「諸法実相」の教えをもとに「人が生まれたり、死んだりすることも、この世で起こるさまざまな出来事も、その一つ一つを実相として肯定していかなければなりません」といっています。

つまり、私たちが見たり聞いたり経験したりすることはすべて、紀野さんの言葉を借りれば「肯定、肯定、絶対肯定」する以外に、受けとめようがないということです。

先ほど「苦しい現実のなかにも、必ず『有り難い』と思える要素が見出せ」るといいましたが、その意味では、見出せるどころか、どれほどつらいことも人生を豊かにする賜りものであり、すべては肯定すべき感謝の対象にほかならないのです。ただ、人により場合によって、現象をすぐに「有り難い」と受けとめられないことも当然あります。

若いうちから両親に感謝できる人もいれば、自分が親になって初めて親の思いに気づく 人がいるようなもので、人それぞれ、気づくときや理解の度合いが違うのです。

そこで、ものごとを肯定的に受けとめられないときに、自己をふり返るポイントをおさえてみましょう。人を否定する気持ちが拭えないときには、「やさしさを忘れていないか」。現象を肯定できないときには、「素直さを失っていないか」。この二点です。自分の思い、つまり我でものごとを見るとき、人はやさしさや素直さを見失いがちなのです。

ものごとを肯定して見るとは、大らかに楽々と生きるということです。肯定的な見方と否定的な見方のどちらが幸せかは、そのことでも明らかではないでしょうか。



LIVING THE LOTUS MARCH 2017

人生の使命を受け入れる

立正佼成会北米国際伝道センター ニコラス オズナ

この体験説法は、2016年10月30日にロサンゼルス教会での開祖さま生誕会式典で行われたものです。

皆さま、おはようございます。そして開祖さま生誕110周年おめでとうございます。私は開祖さまに直接お会いしたことはありませんが、開祖さまからさまざまなお導きを頂きながら生きてまいりました。私は20年前のちょうど今頃立正佼成会に入会しましたので、はじめから佼成会の信仰を持っていたわけではありません。テキサス州のサンアントニオで育った私は、子供の頃バプテスト教会の日曜学校に通っていました。しかし、私の両親は敬虔な信者とはいえなかったため、私が信仰への興味を失い無宗教になるのは時間の問題でした。12歳で宗教に対して懐疑的になり、宗教は理不尽で迷信的なものとしか思えなくなりました。私が信じていたのは事実や科学的・経験的な証拠であり、教科書に書かれていることでした。

ある年の8月の午後、兄が自分の性別について、「私は本当は女性なのに、これまで男性の殻をかぶって嘘をついて生きてきた」と家族に打ち明けました。兄の告白に対し、私は心の準備ができていませんでした。もちろん、それは家族全員にとってもショックでした。兄は外見や名前、そして男性であることに関係することすべてを変えようとしました。父はたいへん男っぽい人でしたので、自分の長男の姿が信じられず、ま



ロサンゼルス教会で説法をするオズナ氏

た受け止めることもできないでいました。兄を見ること さえ耐えられないようでした。兄と話すことがあっても、 いつも怒鳴り声をあげていました。

一方で、母は兄のことをとても心配していました。母 も兄の変化を受け入れることができず、自分自身を責 めていました。私を含め、家族の誰もが現実に起きて いることを受け止められないでいました。私は兄のそ ばにいることがとても恥ずかしくて、兄とは一切関わり を持ちたくないと思っていました。学校では知り合いだ と思われないように、いつも兄とは距離をおいていまし た。その頃には兄は髪を長く伸ばして女性的か中性 的な服装をし、人形や化粧に関心を持っていました。 兄は自分を受け入れてもらおうと一生懸命でしたが、 私たちは兄には何か精神的な問題があるとしか思え ませんでした。母は兄を以前の姿に戻すことができる のではと考え、精神科に連れて行きました。しかし兄 は自分の生き方が間違っているとも、元に戻りたいとも 思っていなかったため、あまり効果はなく、状況は変わ りませんでした。

かつての家族の調和はめちゃくちゃになっていました。父と兄の口論はほぼ毎日のできごとで、家族全員がその犠牲者でした。母は家族の調和を取り戻すためにさまざまな教え、なかでも東洋の哲学に救いを求めていましたが、見つけたものはどれも表面的で本当の変化をもたらすものではありませんでした。私はその頃、兄がなぜそうなってしまったのかわからないまま、とにかく家族のいさかいが収まることを願っていました。

そしてとうとう探し求めていた答えを、自分が本当に信じることができたもの、つまり一冊の教科書の中に見つけたのです。それは世界史の授業で使っていた教科書で、東洋の宗教や仏教に関する項目の中に、長い文章ではありませんでしたが「四諦の法門」の説

明があったのです。それには、「人生は苦であり、苦には原因がある。道に従うことが苦を逃れる道である」と書かれていました。私は説明を読んで、その教えの簡潔さと深遠さに心を惹かれました。当時の私にとって、ともかくそれは「真理」と呼ばれるものであって、合理的に理解できるものでした。世の中のさまざまな苦や家族を覆っていた苦について考えるとき、私の意識には常に「四諦の法門」がありました。私には仏教についてもっと知りたいという強い思いがあったのです。

その後私は何冊か仏教に関する書籍を読みまし た。苦を学びの体験に変え、最終的に幸せに導くこと が主なテーマでした。しかし、仏教を学ぶ素晴らしさを 味わいながらも、何か物足りなさを感じたのは、どこか の仏教団体で実践をしてみたいという思いがあった からでした。母はその頃まだ心の拠り所が見つかって いませんでしたので、私は母に、近くに立正佼成会と いう小さな日本の仏教センターがあるから一緒に行こ うと説得しました。二人でセンターを訪ねると、会員は ほとんど日本人ばかりで、青年の姿は見えませんでし た。儀式は英語だったため、ついていくことはできまし たが、実際は何も理解できませんでした。しかしそんな ことは問題ではありませんでした。というのは、教会の 雰囲気に母と私は大きな安心感を覚え、私たちを温 かく迎え入れ、導いてくださっている会員の皆さんの 温かさと慈悲心に接することができたからです。私は まだ15歳で、わずか数時間そこにいただけですが、自 分が求めていたものを見つけたことを感じました。

当時サンアントニオ支部を担当されていた中村直巳全米布教師さんが、最初に「物事をありのままに受け止めれば必ず幸せになれますよ」とお話しくださったのを私は今でも覚えています。その時布教師さんは続けて、「私たちはみなつながり合いみな仏性を持っている。だから仏さまの眼から見れば私たちはみな平等なのです」と説明してくださいました。私はそのご指導を、兄との関係をよく考えてみるようにと直接自分に向けられたメッセージなのだと受け取りました。それは私にとって大きな発見でした。表面的な理解しかできま

せんでしたが、信仰が理性の響きを持っていることに 私は驚かされました。また、理性を信じるだけでは霊 的に限界があることや、もし本当に自分を変えたいの であれば理性ではなく信仰が必要であることも知り ました。

ふり返ってみると、メキシコ系アメリカ人としてこの小 さな日本の仏教センターにたどり着いたことの不思議 さを私は常に感じていました。しかし今、私は仏さまの み教えを受け入れる準備ができたからこそ、仏さまが 私をこの場所に呼んでくださったのだと確信していま す。中村布教師さんは、「偶然などというものはない」と いつもおっしゃっていました。また、すべてのものごとは 因果の法に基づき、すべてのものごとはまさしくありの ままに存在することも教えて頂きました。そのことから、 私は兄に関するできごとや家庭内の争いには、実は 意味があったことがわかるようになりました。また世界 史の教科書の「四諦の法門」の説明に出会ったこと も、新聞で立正佼成会の広告を見つけたことも、私に とっては必要なことだったのです。それらはみな偶然 ではなかったのです。それどころか、常に自分でも知ら ないうちに仏さまの智慧に導かれていたのでした。

精進の結果が真っ先に大きく現れたのは母でし た。ある日母に話をしようと部屋に行くと、部屋の中に 母と兄がいることに気付きました。開いたドアの隙間 からそっとのぞくと、母が兄の後ろに立って鏡に向 かっているのが見えました。母はその日の夜に予定さ れている兄のオーケストラの演奏会に合わせ、兄のた めに新しいドレスと靴を買ってあげていました。そして 二人で鏡に向かって笑いながら、母は兄の長い髪を 櫛でとかしていたのです。心から兄を受け入れている 母のやさしい姿に、私は言葉を失いました。母は物事 をありのままに受け止める教えを真剣に受け止め、兄 の仏性を見続けていたのでした。母は世間的に正し いと判断していたことに執着するのをやめ、兄の気持 ちに耳を傾け理解しようと一歩を踏み出していたので す。兄はそのとき本当に穏やかな気持ちだったに違い ありません。私には母の行為が兄のためとか自分の

家族全体の変化に私は本当に驚かされ、ご法の力の大きさに気付きました。 ご法は経典に書かれた言葉だけではなかったのです。 真心で実践すれは、教えは本当に人々の生き方を変え、 今、この場所に調和を生み出します。私がそのことを信じられるのは、 その結果を目の当たりにしているからです。

心の平静のためだけでなく、家族の調和のためだったことがわかります。私心を離れた母の行為に涙が出ました。そして兄に対するそれまでの自分の振る舞いを本当に恥ずかしく思いました。私はその日から兄に対する見方を変え、兄のありのままの姿を受け止めようと決心しました。

父の心に変化が現れるには、それよりかなり長い時間が必要でした。しかし、私心のない母の姿を見ることで、そんな父でさえ最後には慈悲の教えに導いて頂くことができました。兄の生き方を許容してはいませんでしたが、父は慈悲の心で兄を受け入れるようになりました。こうした父の心の変化は、仏さまの教えの実践のおかげさまに違いありません。私たちが兄に対して無条件の愛情を示すことができ、兄を変えようとしなくなったことで、兄はもう自分を隠す必要がなくなり、ありのままの自分でいることができたのです。そして、ある日突然、兄は自分の生まれながらの身体を受け入れることを決断し、その結果本来の男性としての自分に戻り、名前や服装なども以前に戻りましたが、それはすべて兄が自分の意志で決めたことでした。

しかし兄が元の姿に戻らなかったとしても、私たちは心配しなかったでしょう。なぜなら私たち自身のなかで、私たちの心のなかで起きていた本当の変化は、消え去りはしないからです。家族全体の変化に私は本当に驚かされ、ご法の力の大きさに気付きました。ご法は経典に書かれた言葉だけではなかったのです。真心で実践すれば、教えは本当に人々の生き方を変え、

今、この場所に調和を生み出します。私がそのことを 信じられるのは、その結果を目の当たりにしているか らです。

1999年、開祖さまご入寂のちょうど2ヵ月前に、グローバル・ユース・ギャザリングに参加するため、私は初めて日本を訪れました。わずか2週間のプログラムでしたが、非常に充実した内容で、そこで出会った多くの会員さんや職員の皆さんの姿をとおして、本当の仏教徒の生き方に接することができました。できれば開祖さまにお会いして感謝の気持ちをお伝えし、ご指導を頂きたかったのですが、佼成病院に入院されていたためかないませんでした。病院は宿泊場所から近かったため、私は徒歩で病院の正面入口に行き、そこで手を合わせました。入口に立って開祖さまについてそれまでに聞かせて頂いたたくさんのお話をふり返りながら、私は開祖さまのような人になりたいと強く思いました。

大学に通ったその後の4年間は、サンアントニオ支部のリーダーとしてさまざまなお役を経験し、出会った人々にご法をお伝えしました。法華経の法師品第十の中で教えて頂いているように、私がこの世に生まれてきたのは仏さまの使いとして人々が仏性に目覚めるようにお導きをするためなのだと深く信じ、それが私の人生の使命となりました。私はテキサス大学で動物学だを学び、獣医学関係の仕事に就いていましたが、いずれは仏教の聖職者をめざして、東京にある立正佼成会の学林に入職するのが自分の道であることが私にはわかっていました。

大学卒業からわずか数か月後、私は学林に入職しました。日本へ出発してから4年間、全身全霊で法華経を学びました。学林本科に入った最初のアメリカ人として、言葉や文化、ライフスタイルの違いなど、多くの困難も経験しました。しかし、仏さまの教えと多くの先生がたのご指導を頂くことで、新しい道を切り開くには常に大きな努力が必要なことがわかりました。そして努力を続けているうちに、目の前が開けていくのを感じられるようになり、すべては仏さまのお慈悲だったことに気づけたのです。

4年間の集中的なトレーニングの後、私は二つのお 役を拝命しました。それは、フロリダ州クリアウォーター にあるユニテリアン・ユニバーサリストの教会でインタ ーンのミニスターを務めることと、その教会の敷地内に 立正佼成会の拠点を立ち上げ、拠点長のお役をさせ て頂くことでした。ユニテリアンの方々と活動を共にす ることは、豊かな学びの体験でした。私はそこで立正 佼成会の中だけでは学べなかったアメリカ人の視点 から見た教会運営の方法を学びました。こうした立正 佼成会とユニテリアン・ユニバーサリスト協会の関係 は初めてのものであり、アメリカ人が宗教に何を求め ているかをさらに学ぶことができた点で大きな意義が ありました。

新たに発足したタンパベイのサンガは、唯一のメンバーの私だけで始めたこじんまりとしたものでしたが、ユニテリアン・ユニバーサリストの教会を参考に、英語による新たな形式の儀式を行うことで、いろいろな意味で成長できました。拠点は急速に発展しましたが、私には十分とは思えませんでした。二年目のある日、儀式の後で、私は自分で設定した目標値に会員数が達していないことへの苛立ちと、二人の主力のリーダーが転居でいなくなったことが原因となり、パニックの発作に襲われました。辛抱強さが必要なことを自分では理解しているつもりでしたが、しかしどこかで自分自身の進歩が実感できる結果を求めていたのです。

隠してはいましたが、私は常に不安を抱えていました。そんな時私はふと経典の読誦修行のことを思い

出しました。いつも経典の読誦を人に勧めていたにも かかわらず、私自身は時々実践するだけだったので す。改めるべきことはわかっていましたので、その時か ら毎日、非常にゆっくり、意識して「経典」を読誦するこ とにしました。毎日の実践を数週間続けた後、自分の 中の悩みがしだいに消えてきたことに気付きました。あ る日の夕方、経典を読誦しながら、メンバーの数は問 題ではないことにも気付きました。たとえ10人前後で あってもメンバーが教会にいらっしゃることは、私自身 がその一人ひとりに心から感謝し、修行精進の一助 となるよう誠心誠意関わっていく大切さを教えてくれる ためだったのです。フロリダでの4年間、サンガの発展 のために努力したことの一つひとつが、試行錯誤によ る計り知れない学びの体験となりました。そして、もの ごとの受け止め方がようやくつかめかけたかと思えた とき、ロサンゼルスの立正佼成会北米国際伝道セン ターへの異動が決まったのです。

こちらでの自分の役割とは何か、最初はよく分かり ませんでしたが、私には芽吹いたばかりの英語サンガ を支えていきたいという思いがありました。妻と私はす ぐにサンガに受け入れて頂き、みなさんと親しくなって、 もう何年も一緒にいるかのようでした。サンガが成長し て新しいことに取り組んでいるのを見ると、心身に新た なエネルギーが湧いてくるのを感じ、また青年部の活 動からも元気をもらいました。それはかつてない経験 でした。妻の千佳はフロリダにいた間もロサンゼルスに 生活の拠点が移ったときも、さまざまな苦労を経験しま した。しかし愚痴一つこぼすことなく、私が道を模索し ているときは、私にとって常に最高の教師でした。妻の ご法にかける喜びから私はいつも元気をもらっていま す。陰で最大の努力を惜しまず、ものごとをありのまま に受け止められる妻だからからこそ、これまでにたくさ んの機会を頂きながらアメリカで日本人ポップシンガー になる夢にむけて頑張ってこられたのだと思います。

ロサンゼルスで皆さんとご法の修行精進の悦びを 味わう一方で、私はさまざまな健康上の問題を経験し ました。昨年の初めから、私はいろいろな病気や急激

な体調不良に悩まされました。最も深刻だったのは食 べ物の嚥下が困難になったときで、あまり食べること ができませんでした。胃が非常に過敏になり、そのため いろいろな食事制限が必要でした。

妻と私が、妻のお母さんに倣ってわが家で毎月の ご命日のご供養をさせて頂こうと決心したのはその頃 でした。お義母さんはご命日のご供養を毎月欠かさず 20年続け、その間ずっと健康で幸せな毎日を過ごし ていたからです。忙しい時が多かったので大変だと 感じたことも時々ありましたが、この実践を通して目に 見えない世界への信仰が深まりました。嚥下の問題 を通して、私は体験の噛みしめが十分にできていなか ったこと、つまり出会いの一つひとつや、支えてくださっ た数多くの人々に対する心からの感謝が足りなかっ たことに気づきました。そのことに気づいた頃から、以 前のように普通に食事ができるようになりました。健康 になって最初に食べたタコスのなんと美味しかったこ とでしょう!

私が体験した症状のいくつかは、不思議なことに

私の先祖が生前苦しんでいた症状と一致するもので した。そうした症状を体験することで、先祖との絆を強 く感じることができ、先祖への感謝ができるようになっ たと思います。症状が消えたのはそのためだと思いま す。ご命日のご供養を実践していた数年間、いろいろ な症状が現れては消えました。それらはみな、同じよう な苦しみを味わっている人に対して思いやりのある人 間になるために、私にとって大切な経験であったと感 じています。立正佼成会のご縁がなければこのような 見方はできなかったはずです。

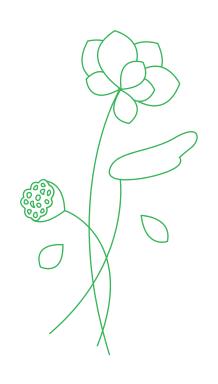
私はこのサンガの一員であることの有り難さを心か ら感じています。とりわけ、福島主任さんをはじめサウ スベイの会員の皆さまの日ごろの力強い支えに対し、 また皆さまが熱心にご命日のご供養に参加されご指 導くださっていることに対し感謝の気持ちでいっぱい です。ロサンゼルス・サンガは私の家族です。こちらに お導き頂いたのは決して偶然ではありません。そして、 これからも素晴らしいできごとがたくさんあるでしょう。

どうもありがとうございました。



ロサンゼルス教会青年部の仲間と(後列左から2番目)

Living the Living the Living the



2 Child Care lifetine

妹が生まれてから長女が甘えだしたのですが

次女を出産した直後は妹の世話ばかりしたがった4歳の長女が、最近、急に甘え でして困らせます。



二人のお子さまの成長をいつも考えてらっ しゃる優しいお母さんですね。妹や弟が生ま れると、必ずと言っていいほど、上の子は「赤ちゃん 返り」をします。お母さんの愛情が妹や弟にいってし まうのではないかと、子どもは心配になるんですね。

だから、「私のことを見て」とばかりに、赤ちゃんと 同じようにオッパイをほしがったり、もう一度オムツを しなければおしっこができなくなったりする場合もあ るのです。

それは、お母さんに対する「愛情の欲求不満」の サインなのです。スキンシップを心がけ、たっぷり 「愛の充電」をしてあげてください。また、ふだんの 会話のなかで「お姉ちゃんだから待っててね」とか 「お姉ちゃんだからがまんしなさい!」という言葉が ふえていませんか?二人の子育てでママは忙しい ので、つい上の子に「お姉ちゃんなんだから…」と 言いがちです。その言葉のかわりに、お手伝いをし てくれたり、よいことをしてくれたときに、「やっぱり、 お姉ちゃんだね!」と言ってあげてください。

一緒に赤ちゃんの世話をしてもらうのもいいので す。たとえばオムツ交換のときに、紙オムツのシー ルを片方だけはめてもらってもいいですし、授乳を 一緒に見守ってもらうのも一つの方法です。そんな とき、たとえば妹のBちゃんについてふれながら、姉 のAちゃんに「Bちゃんが『お姉ちゃん、ありがと う!』って言ってるよ。Aちゃんも小さいときはこう

やって、ママのオッパイをたくさん飲んでくれたんだ よ。ママ、Aちゃんが大好きよ!」と言いながら、 ギュッと抱きしめてあげてください。

子どもは、お母さんの心がほしいだけなのです。 心が満足すれば、お母さんが喜ぶような「お兄ちゃ ん」「お姉ちゃん」になろうと、小さいながら努力する ものです。

子どもは子どもなりに、一生懸命に頑張っている のですね。だから、ときには「今は、あなただけのお 母さんよ」という気持ちで遊んであげることも必要で す。ほんのひと時でいいのです。そのときにお母さ んが思いを込めて遊べば、心が満たされていくこと でしょう。子どもは何といっても、誰よりも一番ママが 好きなのですから。



下の子どもが生まれると、「お姉ちゃん」「お兄ちゃ ん」扱いをしがちですが、まだまだお母さんに甘え たい年ごろ。上の子どもと二人だけの時間もつくりま しょう。

(回答:東京家庭教育研究所)

協力:東京家庭教育研究所

〒166-0012 東京都杉並区和田1-5-12 電話 03 (3381) 0705 FAX 03 (3381) 0723 http://www.kateikyoiku.jp/

東京家庭教育研究所は、「親が変われば子どもが変わる」 という教育原理に基づいて、各地で講演会・講座を開催、 また子育ての相談に応えています。多くの方が、「子どもに 学ぶ家庭教育」を学び、たくさんの幸せな家庭が誕生して います。

LIVING THE LOTUS MARCH 2017



お母さんの愛情

会長先生は「人間の最高の境涯とは、胸のなかが常に慈悲でいっぱいになることです」と教えてくださっています(『こころの眼を開く』 p. 176)。二人のお子さんをお持ちの毎日のあなたの歩みは、まさに思いやりの心、慈悲の心でいっぱいではないでしょうか。

長女さんは、お母さんの愛情を確認したいのです。今こそ長女さんに、たくさんの 愛情ある言葉をかけてあげてください。

仏教には、「和顔愛語」という言葉があります。和やかなニコニコ顔で温かい思い やりのある言葉かけることです。

今まで以上に、たくさんのお母さんの笑顔と温かい言葉を長女さんにかけてあげてください。その笑顔と言葉の力で、きっと長女さんは愛されていることを実感して元気になり、またお姉ちゃんらしさを発揮してくれるようになるでしょう。

(立正佼成会習学部監修)



Please give us your comments!

Living the Lotus では、皆さんのご意見・ご感想を募集しています。 お問い合わせは、以下の E メールアドレスにお願い致します。

E メール: living.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp

LIVING THE LOTUS MARCH 2017



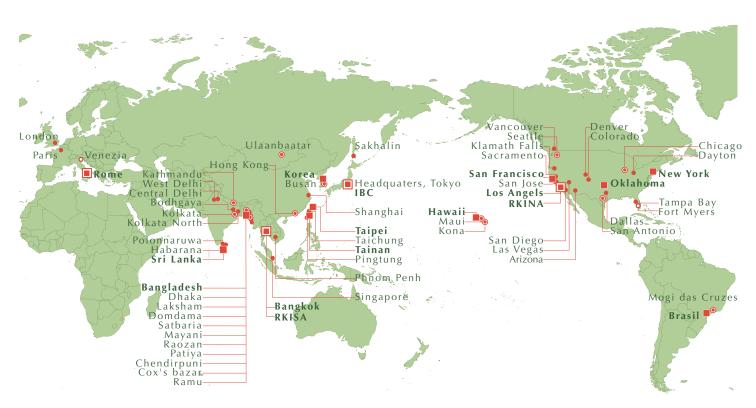
前席のおじさんは仏さま

先日バンコクへ出張した時のフライト中の出来事です。私の前席の中年男性が、 飛行機が飛び立つや否やいきなり座席の背もたれを大きく後ろに倒してきたのです。 「危ないなあ」「ずいぶん失礼な人だなあ」。少々腹がたった私は、私がいかに迷惑を 受けているかをそのおじさんに知らしめようと思いましたが、隣の席が空いていたので そちらに移ることにしました。

席を移ると、ふといろいろな思いが浮かんできました。「私もこれまで自分の行動で 人に迷惑をかけた事がたくさんあったに違いない」「これからは自分の行動が与える 影響に今まで以上に気を配ろう」「他人の行動が気に入らないとつい怒りを表してき た自分が、どんな出会いも幸せに変える生き方を学べたことは本当にありがたい」。 すると、気持ちよく眠っている前席のおじさんの横顔が仏さまに見えました。

3月5日は立正佼成会の創立記念日。佼成会のご縁で最高の幸せを得たことに心より感謝させて頂きます。

国際伝道部長 水谷庄宏



RISSHO KOSEI-KAI INTERNATIONAL BRANCHES

Rissho Kosei-kai Overseas Dharma Centers

Rissho Kosei-kai International

Rissho Kosei-kai International of North America (RKINA)

2707 East First Street Suite #1 Los Angeles CA 90033 U.S.A

Tel: 1-323-262-4430 *Fax*: 1-323-262-4437 *e-mail*: info@rkina.org http://www.rkina.org

Branch under RKINA

Rissho Kosei-kai of Seattle's Buddhist Learning Center

28621 Pacific Highway South, Federal Way, WA 98003, U.S.A. *Tel*: 1-253-945-0024 *Fax*: 1-253-945-0261 e-mail: rkseattlewashington@gmail.com http://buddhistlearningcenter.org/

Rissho Kosei-kai of Vancouver

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of San Antonio

6083 Babcock Road, San Antonio, TX 78240, U.S.A. *Tel*: 1-210-561-7991 *Fax*: 1-210-696-7745 *e-mail*: dharmasanantonio@gmail.com http://www.rkina.org/sanantonio.html

Rissho Kosei-kai of Tampa Bay

2470 Nursery Road, Clearwater, FL 33764, U.S.A. *Tel*: (727) 560-2927 *e-mail*: rktampabay@yahoo.com http://www.buddhismtampabay.org/

Rissho Kosei-kai Buddhist Church of Hawaii

2280 Auhuhu Street, Pearl City, HI 96782, U.S.A. *Tel*: 1-808-455-3212 *Fax*: 1-808-455-4633 *e-mail*: info@rkhawaii.org http://www.rkhawaii.org

Rissho Kosei-kai Maui Dharma Center

1817 Nani Street, Wailuku, HI 96793, U.S.A. *Tel:* 1-808-242-6175 *Fax:* 1-808-244-4625

Rissho Kosei-kai Kona Dharma Center

73-4592 Mamalahoa Highway, Kailua-Kona, HI 96740, U.S.A. *Tel:* 1-808-325-0015 *Fax:* 1-808-333-5537

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Los Angeles

2707 East First Street, Los Angeles, CA 90033, U.S.A. *Tel*: 1-323-269-4741 *Fax*: 1-323-269-4567

 $\textit{e-mail:} \ \text{rk-la@sbcglobal.net} \quad \ \ \text{http://www.rkina.org/losangeles.html}$

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Arizona

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Colorado

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of San Diego

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Las Vegas

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Dallas

Rissho Kosei-kai of San Francisco

1031 Valencia Way, Pacifica, CA 94044, U.S.A. Tel: 1-650-359-6951 Fax: 1-650-359-6437 e-mail: info@rksf.org http://www.rksf.org

Rissho Kosei-kai of Sacramento

Rissho Kosei-kai of San Jose

Rissho Kosei-kai of New York

320 East 39th Street, New York, NY 10016, U.S.A. *Tel:* 1-212-867-5677 *Fax:* 1-212-697-6499 *e-mail:* rkny39@gmail.com http://rk-ny.org/

Rissho Kosei-kai of Chicago

1 West Euclid Ave., Mt. Prospect, IL 60056, U.S.A. *Tel*: 1-773-842-5654 *e-mail*: murakami4838@aol.com http://home.earthlink.net/~rkchi/

Rissho Kosei-kai of Fort Myers

http://www.rkftmyersbuddhism.org/

Rissho Kosei-kai Dharma Center of Oklahoma

2745 N.W. 40th Street, Oklahoma City, OK 73112, U.S.A. Tel & Fax: 1-405-943-5030

e-mail: rkokdc@gmail.com http://www.rkok-dharmacenter.org

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Klamath Falls 1660 Portland St. Klamath Falls, OR 97601, U.S.A.

Rissho Kosei-kai, Dharma Center of Denver

1255 Galapago Street, #809 Denver, CO 80204, U.S.A. *Tel:* 1-303-446-0792

Rissho Kosei-kai Dharma Center of Dayton

425 Patterson Road, Dayton, OH 45419, U.S.A. http://www.rkina-dayton.com/

Risho Kossei-kai do Brasil

Rua Dr. José Estefno 40, Vila Mariana, São Paulo-SP, CEP 04116-060, Brasil *Tel:* 55-11-5549-4446 / 55-11-5573-8377 *Fax:* 55-11-5549-4304 *e-mail:* risho@terra.com.br http://www.rkk.org.br

Risho Kossei-kai de Mogi das Cruzes

Av. Ipiranga 1575-Ap 1, Mogi das Cruzes-SP, CEP 08730-000, Brasil *Tel:* 55-11-5549-4446/55-11-5573-8377

Rissho Kosei-kai of Taipei

4F, No. 10 Hengyang Road, Jhongjheng District, Taipei City 100, Taiwan *Tel:* 886-2-2381-1632 *Fax:* 886-2-2331-3433 http://kosei-kai.blogspot.com/

Rissho Kosei-kai of Taichung

No. 19, Lane 260, Dongying 15th St., East Dist., Taichung City 401, Taiwan Tel: 886-4-2215-4832/886-4-2215-4937 Fax: 886-4-2215-0647

Rissho Kosei-kai of Tainan

No. 45, Chongming 23rd Street, East District, Tainan City 701, Taiwan Tel: 886-6-289-1478 Fax: 886-6-289-1488

Rissho Kosei-kai of Pingtung

Korean Rissho Kosei-kai

6-3, 8 gil Hannamdaero Yongsan gu, Seoul, 04420, Republic of Korea *Tel*: 82-2-796-5571 *Fax*: 82-2-796-1696 *e-mail*: krkk1125@hotmail.com

Korean Rissho Kosei-kai of Busan

Branches under the Headquarters

Rissho Kosei-kai of Hong Kong

Flat D, 5/F, Kiu Hing Mansion, 14 King's Road, North Point, Hong Kong, Republic of China

Rissho Kosei-kai of Ulaanbaatar

15F Express tower, Peace avenue, khoroo-1, Chingeltei district, Ulaanbaatar 15160, Mongolia

Tel: 976-70006960

e-mail: rkkmongolia@yahoo.co.jp

Rissho Kosei-kai of Sakhalin

4 Gruzinski Alley, Yuzhno-Sakhalinsk 693005, Russian Federation Tel & Fax: 7-4242-77-05-14

Rissho Kosei-kai di Roma

Via Torino, 29-00184 Roma, Italia *Tel & Fax*: 39-06-48913949 *e-mail:* roma@rk-euro.org

Rissho Kosei-kai of the UK

Rissho Kosei-kai of Venezia

Castello-2229 30122-Venezia Ve Italy

Rissho Kosei-kai of Paris

86 AV Jean Jaures 93500 Tentin Paris, France

International Buddhist Congregation (IBC)

5F Fumon Hall, 2-6-1 Wada, Suginami-ku, Tokyo, Japan *Tel:* 81-3-5341-1230 *Fax:* 81-3-5341-1224 *e-mail:* ibcrk@kosei-kai.or.jp http://www.ibc-rk.org/

Rissho Kosei-kai of South Asia Division

Rissho Kosei-kai International of South Asia (RKISA)

201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkapi, Huaykhwang Bangkok 10310, Thailand *Tel*: 66-2-716-8141 *Fax*: 66-2-716-8218 *e-mail*: thairissho@csloxinfo.com

Branches under the South Asia Division

Rissho Kosei-kai of Central Delhi

224 Site No.1, Shankar Road, New Rajinder Nagar, New Delhi, 110060, India

Rissho Kosei-kai of West Delhi

66D, Sector-6, DDA-Flats, Dwarka New Delhi 110075, India

Rissho Kosei-kai of Kolkata

E-243 B. P. Township, P. O. Panchasayar, Kolkata 700094, India

Rissho Kosei-kai of Kolkata North

AE/D/12 Arjunpur East, Teghoria, Kolkata 700059, West Bengal, India

Rissho Kosei-kai of Bodhgaya Dharma Center

Ambedkar Nagar, West Police Line Road Rumpur, Gaya-823001, Bihar, India

Rissho Kosei-kai of Kathmandu

Ward No. 3, Jhamsilhel, Sancepa-1, Lalitpur, Kathmandu, Nepal

Rissho Kosei-kai of Singapore

Rissho Kosei-kai of Phnom Penh

#201E2, St 128, Sangkat Mittapheap, Khan 7 Makara,

Phnom Penh, Cambodia

Thai Rissho Friendship Foundation

201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkapi, Huaykhwang Bangkok 10310, Thailand *Tel:* 66-2-716-8141 *Fax:* 66-2-716-8218

e-mail: info.thairissho@gmail.com

Rissho Kosei-kai of Bangladesh

85/A Chanmari Road, Lalkhan Bazar, Chittagong, Bangladesh Tel & Fax: 880-31-626575

Rissho Kosei-kai of Dhaka

House#408/8, Road#7(West), D.O.H.S Baridhara, Dhaka Cant.-1206, Bangladesh *Tel:* 880-2-8413855

Rissho Kosei-kai of Mayani

Mayani(Barua Para), Post Office: Abutorab, Police Station: Mirshari, District: Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Patiya

Patiya, sadar, Patiya, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Domdama

Domdama, Mirsarai, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Cox's Bazar

Ume Burmese Market, Main Road Teck Para, Cox'sbazar, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Satbaria

Satbaria, Hajirpara, Chandanish, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Laksham

Dupchar (West Para), Bhora Jatgat pur, Laksham, Comilla, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Raozan

West Raozan, Ramjan Ali Hat, Raozan, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Chendirpuni

Chendirpuni, Adhunagor, Lohagara, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Ramu

Rissho Kosei-kai Dhamma Foundation, Sri Lanka

382/17, N.A.S. Silva Mawatha, Pepiliyana, Boralesgamuwa, Sri Lanka Tel & Fax: 94-11-2826367

Rissho Kosei-kai of Polonnaruwa

Rissho Kosei-kai of Habarana

151, Damulla Road, Habarana, Sri Lanka

Other Groups

Rissho Kosei-kai Friends in Shanghai